

(南湖の本質的価値(抜粋))

(1) 南湖の本質的価値

① 「士民共楽」の理念と「開かれた」南湖

武士も庶民も共に楽しむことのできる平和で安定した社会を築くという松平定信の政治理念であり、定信は、その理念を巧みな作庭技術を駆使するとともに、幕藩体制と身分制社会の根幹とする江戸時代にあって身分の壁、自藩と他藩という所属の壁、時間の壁という観念的な壁を取り払って、南湖を具体化したこと。

② 太平無事の理念

白河藩全体の「衆と共に舟を浮かべ、太平の無事(紛争、災害、飢餓、流行病の無い平安な世の中)を楽しむ」ことを目的として「行楽の地」を創出すること。

③ 実利と理念、二面性の融合の魅力

南湖の築造には、定信の尊ぶ姿勢を反映して、当時の白河藩の社会・経済の実情に応えるために農業振興や人材育成、また貧民救済などの実利面を併せ持つ一方、作庭技術においては、地形や自然の要素と共楽亭などの人文的要素が融合され、さらに地形や自然の要素は、わき水や山など古来の自然要素と、南湖や千世の堤など人の手によって造られた自然的要素により成っており、このような様々な二面性の融合が南湖の複雑な性格(魅力)を形成していること。

(2) 南湖の本質的価値を構成する要素

定信は、自身の理念や意図(本質的価値)を表現したと考えられ、ゆえに「南湖の本質的価値を構成する要素」は、定信の理念が現された空間(景観)と地形、そして地形と一体となって表出している風姿(風景)であると言える。

これら空間、地形、風姿などの「南湖の本質的価値を構成する要素」は、定信自身が選んだ十七の景勝地に特に集約される。

※史跡名勝南湖公園第2次保存管理計画書及び史跡名勝南湖公園整備基本計画書参考

(南湖及びその周辺区域図)

